

V.

地域社会連携・
国際対応

地域・社会連携など学内外との 連携強化に向けた取り組み

新潟大学

目的・趣旨

新潟大学では昭和 59（1984）年に県や市の公共図書館との間の相互貸借（有料）を開始して以来、地域に開かれた図書館を目指したサービスに取り組んでいます。また、全国の各大学が学内の情報発信の手段として機関リポジトリシステムに取り組む中で、本学では、「新潟県地域共同リポジトリ（NiRR）」を構築して、学内にとどまらず、新潟県内の大学や学術機関の学術情報を一括して世界に発信することに積極的に取り組んでいます。

実施内容

1 地域の公共図書館との連携

平成 21 年に本学と新潟県と新潟市で、平成 22 年には佐渡市との間で連携事業にかかる申し合わせを行いました。これにより、各図書館間の相互貸借の無料化を始め、地域住民が参加できる年 1 回のイベント開催、サービス向上のための職員研修の開催を共同で企画実施しています。

2 新潟県地域共同リポジトリ

平成 21 年 7 月、「新潟県地域共同リポジトリ（NiRR）」を発足させ、本学のサーバを利用して、県内の大学や学術機関等の学術情報を世界に発信する取り組みを開始しました。当館のスタッフは、県内の各大学図書館に対し本取り組みへの参加を呼びかけるとともに、担当者のスキルアップを目指して研修を行うなどの支援を行っています。

実施成果

1 地域の公共図書館との連携

県、市、大学と、それぞれ特徴の違う図書館が連携することで、幅の広い分野の資料を手軽に利用することが可能になり、各図書館で利用できる資料が増えました。各館の利用者から好評で、県内の一般市民の方々への本学資料の貸出冊数は昨年より約 3 割近く増加しました。

2 新潟県地域共同リポジトリ

現在の学術論文の登録件数は約 1 万件です。また、アクセス数は多い月で 3,000 件を上回っています。参加館も発足時 9 館でしたが、現在は 21 館になりました。この枠組みを通じ、地域で生産された研究成果が次々と公開され、利用されることによって、地域の価値が相対的に向上します。共同リポジトリは、地域の活性化、地域振興に貢献しています。

今後の展開

1 地域の公共図書館との連携

現在、所蔵資料の複写物の配送サービスを開始すべく検討を進めています。今後も各図書館の連携を強化し、地域住民へのサービス向上を目指して積極的に取り組んでいきます。

2 新潟県地域共同リポジトリ

県内にはまだ本事業への理解が得られない大学があります。参加館の拡大を目指し、説明会の実施や研修の強化など、登録件数を増やす方策を検討していきます。



機関リポジトリのさらなる発展、地域と取り組む震災資料の共有化及びライブラリー・アーカイブズ連携の取り組み

神戸大学

目的・趣旨

神戸大学は、附属図書館所蔵資料などの知的資産、本学の教育・研究成果、及び震災資料の「デジタルアーカイブ」を広く世界に発信し、地域の機関とも積極的に連携しつつ、社会に対する本学の知的資源のポータル機能を果たすことを目指しています。

実施内容

神戸大学学術成果リポジトリは、研究紀要等の論文情報にとどまらず、退職する教員から引き継いで公開している「キク科の染色体数データベース」等、本学教員が築きあげているユニークな研究成果の公開発信に力を入れています。また、平成7年から公開している「震災文庫」(阪神・淡路大震災関係資料文庫)の一次資料デジタル化公開、明治末から昭和戦前期の新聞切抜資料「新聞記事文庫」の全文・画像デジタル化など、一般の方にも活用していただけるアーカイブ構築を目指しています。さらに、「阪神・淡路大震災記念人と防災未来センター」間の震災資料横断検索システムの構築・提供や、兵庫県大学図書館協議会加盟館機関リポジトリ支援のための情報提供にも主体的に携わっています。平成22年4月、附属図書館に大学文書史料室を設置し、図書館のノウハウを活かした整備を進めています。

実施成果

附属図書館が構築しているデジタルアーカイブの中でも、「震災文庫」「新聞記事文庫」「キク科の染色体数データベース」等のデジタル化の取り組みが評価され、「Library of the Year 2010」優秀賞を大学図書館として初めて受賞しました。さらに東日本大震災からの復興を支援するため、被災地域を対象に、「震災文庫」資料から復旧復興関連文献の紹介とファクシミリ・Eメールによる送信提供サービスを実施しました。また、附属図書館大学文書史料室が、データベース構築など図書館のノウハウを活かした整備が評価され、平成23年3月、内閣府から「国立公文書館に類する施設」に指定されました。

今後の展開

被災大学としての経験を活かして、東北大学等との連携により、震災資料の収集及びデータ共有化の推進を検討しています。

また、兵庫県立図書館所蔵震災資料との横断検索システムの構築を検討しています。



幕末・明治期日本古写真の国際総合目録データベース形成に向けた国際連携の取り組み

長崎大学

目的・趣旨

幕末・明治期の写真は、欧米に日本の姿を伝えるメディアとして伝来し、日本の「お土産アルバム」として売られるようになり、海外に向けて大量に輸出されました。世界各地に残された日本古写真は、海外における日本イメージの源泉として、非常に豊富な情報を内蔵する資料ですが、まだ十分に活用されているとは言えません。長崎大学附属図書館は、日本古写真の世界的なデータベースを形成し、海外における日本研究を活性化すべく、日本古写真を有する海外の図書館や博物館等との連携事業を進めています。

実施内容

国内最大規模（約7,000点）の日本古写真コレクションを有する機関として、長崎大学附属図書館は、平成10年度以来、古写真データベースの英語版作成と国際標準規約に準拠した情報発信、海外機関と協力した古写真展の開催、国際シンポジウムの開催と英文古写真研究誌の発行により、日本古写真の国際的な普及や研究を先導してきました。こうして培った認知と信頼により、平成19年度には140年来オランダに保管されていたボードインアルバムの譲渡を受け、平成20年度には展示会とインターネットによる公開を行いました。また、平成21年度には他の在オランダ日本古写真を調査し、平成22年度には、古写真データベースのさらなる国際化を視野に入れ、イギリスの日本協会とケンブリッジ大学図書館、フランスの国立ギメ東洋美術館が有する日本古写真コレクションの電子化とインターネット公開の現況を調査しました。

実施成果

長崎大学附属図書館は、英語版古写真データベースによる情報発信と国際連携事業の展開により、海外の古写真研究者との間に強力なネットワークを形成しています。また、在外コレクションを調査した結果、日本古写真の電子化とインターネット公開は、いずれの機関でも、今後の課題となっていることがわかりました。世界最大（約18,000点）のコレクションを有するフランス国立ギメ東洋美術館でも、コレクションの入手から間もないことや、古写真担当者の配置が十分でないこともあり、まだ本格化していませんが、日本古写真の国際総合目録データベース形成に向けた連携と協力については、既に合意を得ています。

今後の展開

長崎大学附属図書館では、フランス国立ギメ東洋美術館（写真）に代表される海外機関との連携・協力により、日本古写真情報の世界的な拠点となり、世界各地に点在する日本古写真の発掘と日本研究への活用を促すような、国際総合目録データベースの形成を計画しています。



利用者視点に立った図書検索システムの構築と 利用者参加型の選書イベントの取り組み

愛知県立大学

目的・趣旨

共同図書環事業とは、愛知県立大学、愛知県立芸術大学、愛知淑徳大学、名古屋外国語大学、名古屋学芸大学の5つの大学図書館の蔵書を自由に貸出できることを目指す実験的な取り組みです。既存図書は、図書システムや管理方法が異なるため、容易に活用できない状況にあります。そこで新たに共同図書を多様な参加型選書イベントにより購入し、各図書館に配架して貸出を行うとともに、連携校間において取り寄せを可能とし、かつ取り寄せた共同図書は返却せず、取り寄せ先図書館に配架することで効率化を図りました。共同図書の配架場所が移動し、循環することが共同図書環の「環」の意味するところです。

新たに開発した図書検索システム Tosho Ring には、

- ①書評からの図書検索
- ②書評を書いた人の別書評の検索
- ③利用者相互の情報交換

といった特徴があり、この機能を活用して共同図書の貸出や書評活動を進め、学生・教職員間の書評を通じた情報や学びの交流を促進するねらいがあります。

実施内容

- ①連携校の学生・教職員が選んだ共同蔵書の構築
- ②連携校図書館間の返却なく、図書配架場所が移動する新たな取り寄せサービス
- ③選書イベント（バスツアー選書、教員との店頭選書）
- ④書評機能情報交換
- ⑤学生視点に立った次世代的 OPAC 機能と上記取り寄せ処理機能図書管理システムの開発
- ⑥共同図書展示（テーマ展示、季節展示、平置き）
- ⑦くつろぎスペース確保

実施成果

約3か年間で連携校学生・教職員約4,000人の利用者登録、選書イベント等による共同蔵書構築約12,000冊、総貸出冊数約22,000冊を超える高い利用率となり、書評投稿も約1,700件という活発な図書貸出と書評活動が行われています。連携校の学生・教職員から高い評価を得て、平成23年度より「共同図書環事業」として3か年を目安に継続事業として取り組むこととなりました。

相乗効果として大学図書館利用者・貸出数の増加、授業での共同図書環利用による学習効果向上となりました。また連携校学生との選書バスツアー企画・運営、連携校教職員との企画など、従来の図書館活動にはなかった新たな連携・協働の取り組みが展開されました。

今後の展開

図書情報だけでなく学習や研究に関する知見を共有し、大学を越えて学び合えるコミュニティを形成することを展望しています。大学改革のために連携校が総力を挙げて取り組んできたこの事業成果を発展させるために、連携校の学生・教職員の多様な交流や連携による具体的な取り組みを積み重ねていきたいと考えています。



2010 春学生選書バスツアー

医療・健康情報に強い地域を目指した公共 図書館4館との連携による健康支援の取り組み

愛知医科大学

目的・趣旨

日常生活における問題解決を支援することは、公共図書館の重要な任務の一つです。中でも医療・健康情報は生活に直結する事柄のため、利用者からのニーズが増加しています。一方当館は、本学のミッションの一つである「地域貢献」を図書館の立場で実践したいと考えています。言い換えれば、健康支援事業は館種を超えて、双方のニーズにより成り立っているとも言えます。

本事業は、大学図書館（当館）と四つの公共図書館（尾張旭市立、瀬戸市立、長久手町中央、日進市立）が医療・健康に特化して共同していることが大きな特徴です。正式な事業名は「図書館連携による健康支援事業」ですが、利用者に親しんでいただけるよう“めりーらいん”という愛称を用いています。事業目的は次のとおりです。

- 1 信頼性が高く理解しやすい医療・健康情報を一般市民に提供する。
- 2 利用者の知識向上と、医療に参加する力（医師とのコミュニケーションや自己決定等）の育成に貢献する。
- 3 図書館員の資質向上を図る。

実施内容

- 1 医療・健康情報の提供手段として、調べ方ガイド「メディカルパス」の共同作成や、問題解決に役立つ資料の購入を行っています。[写真]
- 2 健康情報リテラシー（健康情報を探す力、理解する力、評価する力）の習得を支援するために、イベント、講演会、企画展示を行っています。
- 3 選書、レファレンス等に関する情報交換を、連携館同士で行っています。

※その他詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.aichi-med-u.ac.jp/micl/meliline/top.html>

実施成果

- 1 メディカルパスを作成したことにより、テーマとした疾患等について知識を得ることができ、その成果が蔵書構築（選書・除架）につながりました。
- 2 イベント等に参加した一般市民から「頼もしい」という声が聞かれ、利用者の図書館への期待感が高まりました。
- 3 レファレンス等において連携館の協力体制が整いました。[図]
- 4 業務の統一を目指すため、『めりーらいん業務ハンドブック』を作成しました。

今後の展開

この活動は図書館だけで完結するものではありません。通常、医療・健康情報を必要とする人の多くは、病院、薬局、保健所、介護保険施設、児童館などを利用しています。そこで今後は、そうした関係機関とも連携を図り、図書館の問題解決支援機能を広く周知したいと考えています。また逆に、選書や図書館だけでは対応しきれないレファレンス等について協力が得られれば、医療・健康情報に強い地域として大きく前進できるものと確信しています。



図：連携事業イメージとマスコットキャラクター



写真：医学書架にメディカルパスを設置